

## 令和5年度第1回 西宮市健康増進計画・食育推進計画推進会議 議事要旨

日 時：令和5年6月1日（木）午後2時～3時40分

場 所：西宮市勤労会館 第8会議室

出席者：内藤委員長、川崎副委員長、北川委員、藏田委員、澤田委員、潮崎委員、白石委員、坪内委員、林委員、船橋委員、山内委員、（代理出席）中川氏

（事務局）

町田健康福祉局長、福田保健所長、園田保健所副所長

国民健康保険課 鴛海課長 高齢者医療保険課 岡課長 地域共生推進課 山本課長

学校給食課 辻係長、升田係長 学校保健安全課 濱本課長 美化企画課 藪内課長

保育所事業課 的場課長 食肉衛生検査所 梅田所長

食品衛生課 松本課長、藤田係長、久村管理栄養士

地域保健課 中東担当課長、岡崎係長、樋口係長

健康増進課 反田課長、川崎担当課長、向井係長、漆崎係長、本田係長、安土管理栄養士、山本管理栄養士、神田歯科衛生士、中川主任保健師、北原主任保健師、吉本保健師、小坂保健師、池澤保健師

ジャパンインターナショナル総合研究所（ジャパン総研） 宮川氏、平野氏

### 1. 開 会

高尾委員の代理で西宮薬剤師会中川会長が出席、岸本委員欠席。

出席委員12名、欠席委員1名につき会議の成立の確認。

傍聴希望1名、保健所実習生の見学あり。

### 2. 委員・事務局紹介

### 3. 委員長・副委員長選出

委員より事務局に一任との声あり、西宮市附属機関条例第3条に従い、委員長に内藤委員、副委員長に川崎委員を選出。

### 4. 議 題

（1）西宮市健康増進計画・食育推進計画策定のスケジュールについて

（2）アンケート調査結果・評価指標等からみる西宮市の現状と課題

事務局より資料1～資料3について説明。

<ご意見>

◎栄養・食生活、身体活動・運動

A委員：肥満等の指標のハードルが高い。企業でも肥満が増えている状況だ。目標値について国の指標を参考にしているなど条件があれば伺いたい。

事務局：メタボリックシンドローム対策に取り組むため、国や県の数値を参考に高めの設定をしている。国等の調査結果をみると、コロナ禍の影響が出ている。こうした状況も踏まえながら、

実現可能な目標値を検討していきたい。

B 委員：やせについて、若い女性のやせが倍増していることが印象的だ。アンケート調査結果報告書では、小中学生の食育に力を入れるべきとの結果が出ている。学校保健と地域との連携がどのように取り組まれてきたのかということ、そして今後の方針をお聞きしたい。

事務局：各校で計画的に取り組んでいるものの、地域保健との連携はまだ十分にはできていない。家庭科の連携や、保健分野からのアプローチ等、今後は家庭を巻き込むといった工夫をしながら取り組んでいきたい。

委員長：大学でBMIのやせに該当する人が20%程度みられる。母数が少ないため、アンケートだけでなく、大学や中学・高校はどうなのかということ調べるなど、データの信頼性を補完していくことが重要だ。

事務局：まだ検討できていないため、今後検討したい。

委員長：アンケートだけで評価するのではなく、補完していく手法を検討してほしい。指標はコロナの影響を踏まえたものとなっているのか。

事務局：令和4年度にアンケート調査を実施しており、コロナを経た人々の考えや行動が表れていると考えている。

C 委員：40～50歳以上という身体に影響が出てくるという世代の背景を意識して評価することも重要だと思う。

事務局：今後指標を設定する際は反映する必要がある。

委員長：地域活動について、令和4年は外出を控えるような社会情勢があり、数値に表れていることと思う。

事務局：外出の自粛、行政が支援する地域活動の自粛がある中での評価であり、厳密な比較は難しい。今後設定する指標ではコロナを加味して検討したい。

#### ◎こころの健康、たばこ、アルコール

D 委員：ストレスを感じている人の減少について、中高生の自殺対策が現場で重要な問題となっている。10代のストレスについて把握しているのか、学校との連携をしているか伺いたい。

事務局：中高生へのアンケートは実施していない。中高生に対しては県のアンケートを参考に、自殺対策計画を検討している。教員に対するゲートキーパー研修等を通じて連携を強化し、未成年の自殺対策に取り組んでいきたい。

委員長：アメリカはこころの健康に関して孤立や孤独と結び付けている。指標を検討する際に孤立や孤独について検討してほしい。

E 委員：たばこ、アルコール、薬物について、学校薬剤師が子どもに話すことができる。学校薬剤師をさらに活用してほしい。ゲートキーパーについて、薬局の薬剤師を地域資源として活用してほしい。どこの薬局なら対応ができるのか行政と連携して見える化したいと思っている。

#### ◎歯・口腔の健康、健康診査と健康管理

F 委員：歯・口腔に関して国も指標を概ねクリアしていると言われているが、設定に疑問を感じるものもある。3歳の歯について、1歳半で概ね決まると言われている。3歳のう歯を減らすために何をするのかということ考え、指標を設定する必要がある。

学校健診について、う歯を見逃す可能性が高く、見つけることは困難。指標として正しい数値が出ているのか疑問があり、代替的な指標が必要だ。

歯周疾患を有する人だけでなく、重度かどうか把握する必要があると思う。

8割の人が歯周病と言われている。国民の8割が罹患している疾病は他にない。行政が要請するだけでは限界があると感じている。

副委員長：がん検診について、女性は検診項目が多くなると受診率が下がる。同時に受診できるものはない。がんによって見つけやすいもの、見つけにくいものがある。良い悪いということもあるが、SNS等で認識する機会が増えている。より一層啓発する必要がある。

G委員：企業でもバリウムを受けないという人が多い。胃がん検診を受けてもらいやすくなる方法を考えていく必要がある。

委員長：がん検診の受け方について別の会議があると思う。そこで議論されている内容も反映してほしい。

#### ◎食育・食の安全安心

H委員：小中学生に対する食育に力を入れるべきという市民が多いものの、公立の小中学校で栄養教諭が配置されていない学校が1/4ある。栄養教育に対する学校の意識の差を把握されているのか伺いたい。また、学校での食の安全はアレルギー対策が中心であるが、担い手は栄養教諭であり、栄養教諭が不在の学校では他の教員が負担を分担している。改善点が必要だと思う。

事務局：栄養教諭の配置は継続して国と県に要望していくことを考えている。栄養教諭は食育に欠かせない存在だと認識しており、今後も取り組みを続けていく。

#### ◎分野横断的な課題（コロナ・全体）

委員長：コロナの波が見えていない状況だ。今後の計画ではコロナを見据えるのか、含めないのか伺いたい。

事務局：国や県の動きからアフターコロナ、周期的に発生すると言われている他の感染症も視野に入れた計画としたい。

I委員：フレイルの認知度について、全体的には低いものの、高齢者は高い。活動を通じて認知が広がっていると感じていたが、まだまだ頑張らないといけなかった。フレイル対策は高齢者が中心で、若者には理解が広がっていない。これからの活動に力を入れたい。

副委員長：アフターコロナという言葉が広がっているものの、この3年間に染み付いた心理・分断は強く残っている。計画を進めていくうえで、人々への細かな配慮が必要だと思う。感染に配慮した会合等を続けていく必要があると感じている。

J委員：骨粗しょう症検診の受診率が低いと思った。骨折で入院する人が多い。一次予防に力を入れないと、骨折による寝たきりによる重症化につながる。骨については改善ができるものだと思うっており、若い世代への啓発が重要だ。

委員長：本日の協議を通じて、非常に有意義なご意見をいただけたと思っている。長期の計画であり、前回よりもさらに工夫した計画になるよう、今後も協力をお願いしたい。

#### 5. その他・事務連絡

次回推進会議の時期：8月下旬～9月上旬予定

#### 6. 閉会、局長あいさつ